伝えよう「羽越水害」つなげよう地域の絆

羽越水害復興50年記念事業

あの日から50年
～羽越水害の記録～

五泉市馬下字下谷地内

阿賀野市今板地内　写真提供／新潟日報社

新潟市北区浦ノ入地内

阿賀町新谷地内

胎内市飯角地内

新発田市中田町地内　写真提供／新潟日報社

羽越水害復興50年記念事業実行委員会
（阿賀野川・加治川・胎内川水系）

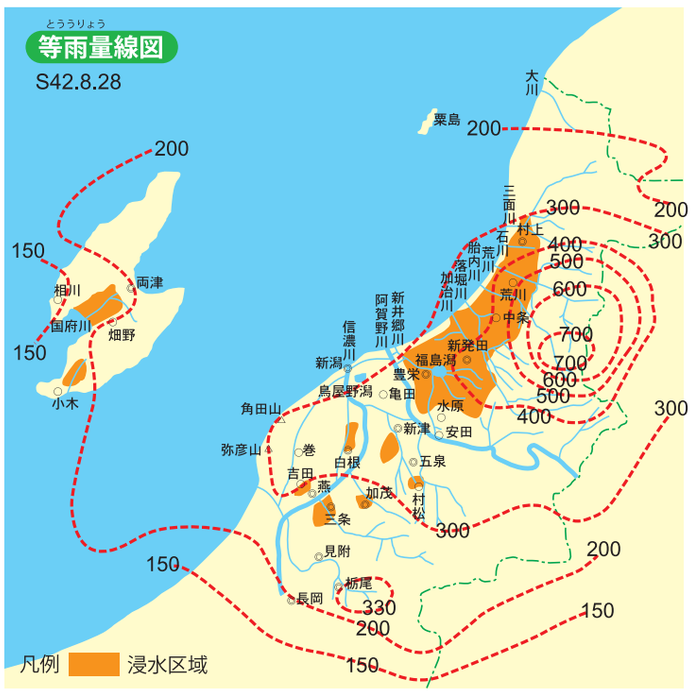
1 羽越水害の被害状況と特徴

昭和42年8月26日頃から北と南の高気圧の間に停滞していた前線がやや活発となり、この前線上に発生した低気圧が26日～29日にかけて2つ通り、胎内川上流域では、総雨量が700mmを越す豪雨となりました。

この間に降雨の中心は荒川から加治川、さらに南下して阿賀野川流域に広がり、平野部では加治川での破堤等による浸水が家屋等を襲い、山間部では豪雨が山肌を削り取り、土石流となって人々を襲いました。その結果96名の尊い命が失われました。

被害状況（金額は平成28年度換算）

被害額			2,846億円
死　者	96人	行方不明者	38人
全壊・流失家屋数			1,080棟
半壊家屋数			2,067棟
床上浸水家屋数			16,422棟
床下浸水家屋数			45,066棟



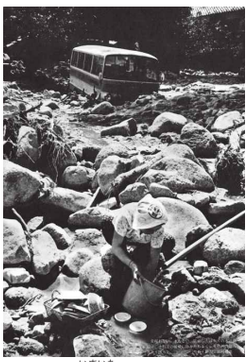
阿賀野市高田地内

新潟市北区前新田沖地内

阿賀町新谷地内

阿賀町細越地内

胎内市本町地内


阿賀野市今板地内
写真提供／新潟日報社

阿賀野市山倉新田地内

五泉市不動堂地内

新発田市佐々木地内
写真提供／新潟日報社

新潟市北区新鼻甲地内

阿賀野市都辺田地内

五泉市水島町団地地内

2 水害・土砂災害を乗り越えて（事業の実施事例）

■被害直後と復旧工事後の状況です。

昭和42年8月28日加治川破堤状況

阿賀野市都辺田の被害状況

新発田市岡田　被災した安全橋

現在の加治川

加治川治水ダム

都辺田川の砂防えん堤と流路工

現在の安全橋

■水害とは

水害とは、水による災害のことで、洪水、内水、高潮、津波などで受ける被害です。中でも川に関する水害は、主に大雨などにより川の水量が普段より著しく増え、堤防から水があふれ、または堤防が壊れることにより、住宅地や農地などが浸水する「外水はん濫」と、堤防から水があふれなくても、川へ排水する下水道などの排水能力の不足などが原因で降った雨を排水処理できなくて引き起こす「内水はん濫」があります。

①外水はん濫

②内水はん濫

NPO 法人　環境防災総合政策研究機構　風水害情報ガイドブックより

■土砂災害とは

土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。その流れの早さは、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

がけ崩れ

雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは、突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く死者の割合も高くなっています。

地すべり

斜面が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難です。

資料提供／国土交通省河川局砂防部

3 今、すすめている対策

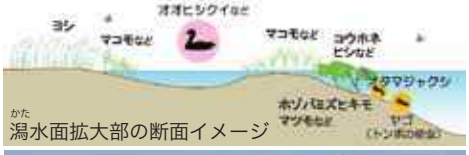
■河川事業

福島潟の整備

福島潟放水路は平成15年3月に通水しましたが、福島潟周辺の浸水被害を軽減させるためには、福島潟の整備が必要です。そのため、福島潟に湖岸堤の築堤や潟内の水路の拡幅などの事業を平成15年度に着手し、現在整備を進めています。

福島潟は、天然記念物であるオオヒシクイの日本一の越冬地であり、オニバスの自生の北限であるなど「動植物の宝庫」として知られています。

河川工事を行うにあたっては、これらの動植物の生息環境に配慮する必要があり、現在の潟環境を保全・拡大するなど、河川工事と環境保全の調和を目指します。



潟水面拡大部の断面イメージ

■ダム事業

胎内川　奥胎内ダムの建設

胎内川でも羽越水害などをきっかけに洪水被害を軽減させるために治水対策を進めてきました。

昭和52年に胎内川ダムを完成させ、現在、胎内川総合開発事業により、新たに奥胎内ダムを建設中です。

この2つのダムにより下流地域を洪水被害から守ります。また、この事業は、渇水時の流水の正常な機能の維持、胎内市への水道水の供給、発電を行う多目的のダム事業です。

建設中の奥胎内ダム（平成28年11月）

■砂防事業

胎内市の沢ノ入沢では、自然環境保全のため、普段は土砂を貯めずに下流に流し、土石流が発生した時のみ止めるタイプのスリットダムが、建設されています。

また、阿賀野市の大荒川などでは、渓流に入り遊べるよう配慮し、砂防事業を実施しています。

沢ノ入沢砂防えん堤　鋼製セルとスリット（胎内市夏井）
写真提供／国土交通省 北陸地方整備局 飯豊山系砂防事務所

大荒川の流路工　写真提供／阿賀野市

4 暮らしの中の備え

■水害、土砂災害に対するソフト対策

想定を越える力で突然襲ってくる自然災害に対して、私たちはできる限り普段から備えておく必要があります。

そこで、県では河川が氾濫した場合の浸水想定区域図を作成し、土砂災害発生の恐れがある箇所を土砂災害（特別）警戒区域に指定しています。さらに市町村ではこれを基に洪水・土砂災害ハザードマップを作成し、地域のみなさんへ公表しています。

私たちは、普段からこのハザードマップを活用し、自分がどこに避難しなければいけないか、避難するまで危険なところはないかなどを確認しておく必要があります。

また、災害時には自分でできることは自分でやり（自助）、一人では避難できない人には地域のみんなで助け合うこと（共助）が必要です。

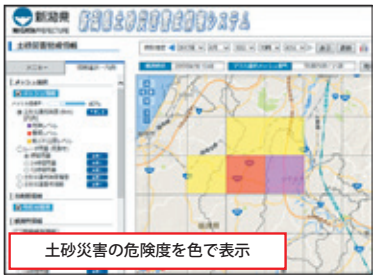
災害に対して普段から地域ぐるみで備えておくことで、いざという時の減災につながります。

【新発田市ハザードマップの一例】

【新潟県土木防災情報システム】河川や土砂に関する情報を提供しています
（PC 版）http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/（スマホ版）http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen_s/

河川水位（PC版）

土砂災害警戒情報（PC版）



スマホ版はさらに見やすく!

主催：羽越水害復興50年記念事業（阿賀野川・加治川・胎内川水系）実行委員会
新発田市、阿賀野市、新潟市、胎内市、五泉市、阿賀町、国土交通省北陸地方整備局阿賀野川河川事務所、国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所、新潟県土木部、新潟県新発田地域振興局地域整備部、新潟県新潟地域振興局地域整備部、新潟県新潟地域振興局新津地域整備部、新潟県新潟地域振興局津川地区振興事務所

協賛： 新潟県治水砂防協会、新潟県河川協会、一般財団法人新潟県建設技術センター、一般社団法人新潟県建設業協会、一般社団法人建設コンサルタンツ協会北陸支部
一般社団法人新潟県地質調査業協会、一般社団法人新潟県測量設計業協会、公益社団法人日本技術士会北陸本部、一般社団法人北陸地域づくり協会
NPO法人新潟県砂防ボランティア協会、NPO法人にいがた地域創造センター

後援： 公益社団法人土木学会関東支部新潟会、新潟日報社、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、日本経済新聞社新潟支局、産経新聞新潟支局、
NHK新潟放送局、BSN新潟放送、ＮＳＴ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムしばた
【順不同】

問い合わせ： 羽越水害復興50年記念事業（阿賀野川・加治川・胎内川水系）実行委員会事務局（新潟県土木部河川管理課）
〒950-8570　新潟県新潟市中央区新光町4-1　TEL 025-280-5412　FAX 025-283-6517